

# 情報リテラシー教育の実践状況の調査結果

## 1. 実施目的

学士力として求められる「情報リテラシー能力」の教育の在り方を研究するため、リテラシー教育の実践状況についてアンケート調査を行った。分科会として整理分析した上で大学教育に求められる分野共通の情報リテラシー教育のガイドラインをとりまとめた。

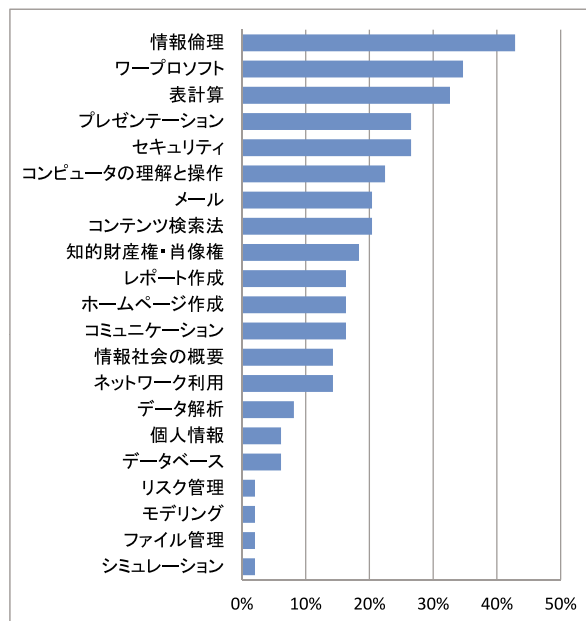
## 2. 実施方法

調査は、情報リテラシー教育の内容をおおまかに把握した上で、ガイドラインの基礎となる到達目標の実践状況についてたずねた。情報リテラシー教育でとりあげている授業の内容をおおまかに把握するため、加盟校教員を対象に教育問題の意見交流を希望する情報関係分野のサイバーFD研究員に平成23年6月にメールによるアンケートを実施したところ約50名からの回答が寄せられた。さらに、23年7月に大学としての情報リテラシー教育の取り組み状況を把握するため、短期大学を除く加盟大学292校に調査した結果、119校、4割の回答があった。

## 3. 調査結果

### (1) 情報リテラシー教育の内容

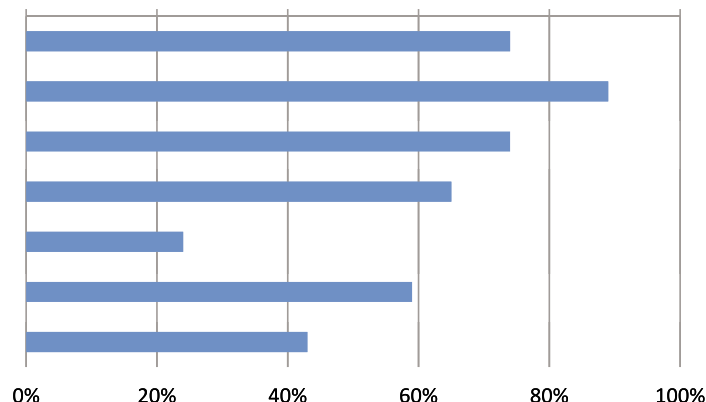
リテラシー教育に比較的熱心な教員の方々の傾向を読み取るため、記述いただいた中からキーワード検索した結果、情報倫理教育、文書作成、表計算等は多くとりあげられているが、データ解析、データベース、リスク管理、モデリングなどのデータの取扱いに関する取り組みは極めて少ない。



### (2) 情報リテラシー教育到達目標の実践状況

本協会では7つの到達目標を整理して大学にそれらの取り組みについてたずねたところ、「倫理に配慮した加工・表現・発信」、「文章表現・統計計算」、「情報社会の理解とセキュリティ対策」については7割から9割の大学が実施していることが判明した。一方「コンピュータの仕組みと原理」、「コミュニケーション」は6割程度、「情報の信頼性を選別・識別」は4割、「モデル化、シミュレーション」は2割程度の実施に留まっている。

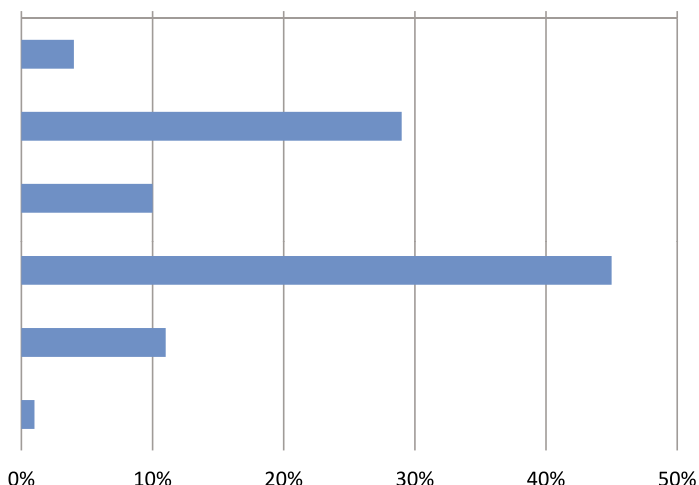
|   |     |
|---|-----|
| 収集した情報を情報の倫理に配慮して、加工・表現・発信できるようにする          | 74% |
| ソフトを使って文章表現・統計計算ができるようにする                   | 89% |
| 情報社会の光と影を理解させ、安全を維持するためのセキュリティ知識・技能を身につけさせる | 74% |
| コンピュータと情報通信の仕組みと原理を理解させる                    | 65% |
| 問題を効果的に解決する手法で、モデル化やシミュレーションに必要な知識技能を修得させる  | 24% |
| 情報通信技術を活用して最適なコミュニケーションを行うための知識と技能を修得させる    | 59% |
| 情報の信頼性を選別・識別する知識と技能を修得させる                   | 43% |



### (3) 情報リテラシー教育の教育課程

大学として情報リテラシー教育を教育課程の中でどのように位置付け、どのような方法で実施しているかたずねたところ、78%の大学が初年次教育と情報部門センターで実施しており、学修プロセスに見合って発展的に学ぶシステムとなっていない。なお、2割の大学は初年次教育に加えてキャリア教育の中でも実施しており、卒業までに身につける能力の定着化に取り組んでいることがうかがえる。

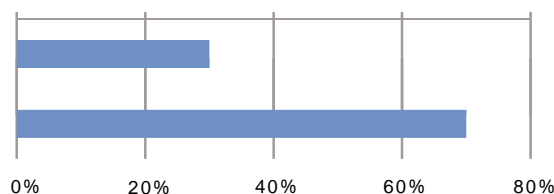
|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| 情報部門センターで、ネットへのアクセス権限等を取得させる中で実施 | 4%  |
| 情報部門センターでの実施と初年次教育の一環として実施       | 29% |
| 情報部門センターでの実施と初年次教育及びキャリア教育で実施    | 10% |
| 初年次教育で実施                         | 45% |
| 初年次教育及びキャリア教育で実施                 | 11% |
| キャリア教育で実施                        | 1%  |



### (4) 情報倫理教育の実施状況

上記(2)の情報リテラシー教育到達目標の実践状況の中で、「収集した情報を情報の倫理に配慮して、加工・表現・発信できるようにする」に取り組んでいる大学が74%となっていることから、情報倫理教育がどの程度実施されているかを分析するため、キーワード検索したところ、7割の大学は授業で情報倫理をとりあげておらず、ホームページ、電子メール、文書・表計算ソフトの活用法などに終始していることが判明した。積極的に授業を実施している大学は3割に留まっており、情報倫理教育の普及が大学の課題であることが浮き彫りになった。

|  |     |
|--|-----|
| 授業で情報倫理を取り上げている                                      | 30% |
| 授業で情報倫理を取り上げていない(ホームページ、電子メール、文書・表計算ソフトの活用法などになっている) | 70% |



## (5) 上記調査結果による現状分析

情報リテラシー教育は実施されているが、大多数の大学は初年次での実施に留まっている。実施している内容は、大学間のばらつきが大きく、情報リテラシーを大学卒業時の「学士力」と捉えた場合、それを保証できるカリキュラムとはなっていない。

大学教育の中での情報教育の位置づけが不明確で、初年次教育・キャリア教育に集中している。情報リテラシー能力を活用できるようにするには、あらゆる分野の授業の中で学士力の汎用的技能の一環として分野別教育で情報教育をとりあげ、学修活動での実践を通じて確実に身につけさせることが必要となろう。

情報リテラシー教育の内容については、「収集した情報を情報の倫理に配慮して、加工・表現・発信できるようにする」に取り組んでいる大学が大半となっているが、実際に情報の倫理をとりあげている大学は3割と極めて低い。高度情報社会の最大の課題は人間の心の問題で、情報社会に参画する適切な態度を身につけることが要請されてくる。人間の本能と理性のバランスを適切に自己管理できるようにする人格形成の場が必要である。その意味で情報倫理の教育を人格形成教育の入口として、あらゆる分野で展開することが必要となろう。

「情報の識別、信頼性の知識・技能」、「ソフトの使用結果をそのまま信用せずに批判的に吟味」、「モデル化・シミュレーション」に取り組んでいる大学は少ない。課題解決能力の一環として、情報の正確性や信頼性を識別し、発信者の意図を読み解く能力と計算結果を鵜呑みにせず、解の妥当性を判断する情報の科学的能力がますます重要となってくる。文系、理系、医歯薬系を問わず、学問分野共通のリテラシー教育として様々な場面で教育を実施することが必要となろう。

情報の取り扱いに関する問題は、ケーススタディによるグループ学修を通じて身近かな問題として認識させることが重要で、専門教育の様々な場面において取り上げていくことを学内で共通理解しておくことが望まれる。それには、教員の指導能力の開発が必要であることから、大学のガバナンスに向けてFD対応の提案を呼びかけていく必要がある。本協会などと連携して積極的に取り組まれることが望まれる。

そこで、本分科会では、情報リテラシーを大学卒業時の学士力と捉え、社会から求められている力及び高等学校までに学ぶ内容を勘案して、情報社会で生き抜くために必要となる心構え・知識・技能を洗い出し、「到達目標」、「到達度」、「教育・学修方法の例示」、「到達度の測定方法」をガイドラインとしてとりまとめた。